

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第13号 令和元年10月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9408 (直通)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて！ 市内生産者初の試み



←小学生の農業体験受入れも実施。こまつなの収穫を見守る榎本さん親子



都知事からの→
認証証書

平成31年3月27日付けで武蔵野市農業委員会の榎本一宏会長が、市内に畑を所有する生産者として初めて「東京都GAP」認証を取得しました。厳しい審査を経て認証された生産者の農作物だけが**東京2020大会**への出荷が認められます。

このような取り組みを始め、都市化された武蔵野市でも、情熱を持って先進的な農業経営に取り組んでいます。

「東京都GAP」認証とは？
GAPは「Good Agricultural Practice」の略称です。直訳は「良い農業の実践」ですが、主に環境保全・労働安全について、88項目もの点検に合格すると認証取得となります。東京都で現在34経営体しかなく、取得のハードルの高さがかがえます。

武蔵野市内産を知ろう！～「東京うど」～

武蔵野市を代表する特産品は「東京うど」です。うどの最盛期は2月中旬ですが、お歳暮の時期に贈答用として好まれるため、生産者は工夫を凝らして、年末に立派なうどを出荷しています。

毎年11月に各自治体の農産物品評会が開催されますが、うどが多数出品されるのは武蔵野市の農産物品評会の特徴です。11月に一級品のうどを生産するには、熟練の技術と長年の経験が不可欠であるため、限られた生産者のみが出品し、武蔵野市の特産品を支えています。

本格的な収穫は1月頃からとなります。ぜひご賞味ください。

※お買い求めはJA東京むさし新鮮館（0422-54-7150）まで。予約は12月より翌年3月頃まで受付。



春から秋にかけて
群馬県の高冷地でうどの根株を栽培
(令和元年9月11日に撮影)



根株をうど室(むろ)に入れ、日光を遮ることで
真っ白に育つ東京うど
(出荷直前の様子)



農産物品評会の審査の様子

第8回夏野菜品評会開催

夏は1年の中でも野菜収穫量がとても多く、色とりどりの旬の野菜たちが顔を揃えます。そんな夏野菜の栽培技術の向上・武蔵野市農業のPRを目的に今年で8回目の夏野菜品評会を開催しました。

●展示・食べ比べ・直売 7月1日(月) 市役所



▲食べ比べはなす、枝豆、じゃがいも、とうもろこしを用意。同時開催のほおずき市・野菜の即売会も大盛況でした。ピンクのエプロンはJA東京むさし武蔵野地区の女性部「sun♪さんクラブ」のみなさん。アイデアレシピの開発等で市内農業を応援しています。

●立毛部門 審査日：6月26日(水) 各農家の畑に行き、審査しました。

品目	品種	受賞者名	受賞名
とうもろこし	エミールコーン	井口 義一	武蔵野市長賞
なす	千両2号	高橋 政孝	武蔵野市議会議長賞
ミニかぼちゃ	坊ちゃんカボチャ	大坂 新一	武蔵野市農業委員会会長賞
なす	千両2号	田中 武徳	東京むさし農業協同組合長賞

※敬称略



▲井口義一さん

とうもろこしは近所でも評判です。楽しみにしていたので、一生懸命力を入れてきました。受賞できて光栄に思います。

●野菜部門 審査日：7月1日(月) 市役所にて野菜の審査をしました。

品目	品種	受賞者名	受賞名
なす	千両2号	高橋 政孝	武蔵野市長賞
枝豆	おつな姫	井口 義一	北多摩地区農業委員会連合会会長賞
きゅうり	夏すずみ	田中 恒男	武蔵野市農業経営者クラブ会長賞
トマト	ろくさんまる	井口 義一	武蔵野市都市農政推進協議会会長賞
とうもろこし	ゴールドラッシュ	坂本 和人	武蔵野商工会議所会頭賞

※敬称略



▲高橋政孝さん

YouTubeにアップされている他の農業者の仕立て方も参考に日々研究しています。今は野菜作りが楽しくてしかたがありません。

農業委員会行政視察 ～山形県酒田市～

令和元年8月27日から28日にかけて、友好都市である山形県酒田市農業委員会へ、ICT（情報通信技術の略）・AI活用事例（ドローンによる圃場^{ほしやう}施肥量算出）等の行政視察を行いました。



▲ICT・AI活用事例についての講義



▲庄内柿圃場^{ほしやう}の見学



▲ケイトウ圃場^{ほしやう}の見学

酒田市と本市の農業規模は大きく異なりますが、農業の課題には多くの共通点があります。

酒田市でも農業従事者の高齢化や後継者不足が大きな課題となっています。その課題をICT・AI技術を活用し、超省力化により解決を目指していくのが、「**SAKATAスマート農業City構想**」です。



▲スマート農業センター前にて

販路についても人口減少などから国内消費減少が見込まれるため、海外への輸出のビジョンを持っているとのこと。かつて北前船の西回り航路で栄えた酒田市ならではの発想も学ぶことができました。

ドローンで農地の状態を
上空からチェック



市民農園コンクール

令和元年7月9日に市民農園栽培コンクールを実施しました。市内に8園ある市民農園のうち、2年目の4園（御殿山・御殿山第2・緑町・南町）が対象となり、応募のあった19区画を審査しました。



▲審査の様子

審査講評（抜粋）

審査委員長 福田俊氏（東京農業大学グリーンアカデミー講師）



今年の気象の推移は、梅雨入り前の5月下旬は真夏のような高温でしたが、その後梅雨があけず例年のない日照不足になりました。そのような中、空き空間ができないよう、連続栽培による区画の有効活用に取り組み、悪天候でも諦めずに工夫しながら家庭菜園を楽しんでいる区画を上位入賞とさせていただきました。

☆来年は、北町・関前ふれあい・関前第2・境南が対象予定です。

子どもたちの農業体験

未来を担う子どもたちに、農業学習の機会を設けています。その一部をご紹介します。



▲こまつなの種まき実演（関前南小）



▲じゃがいも掘り体験（第五小）



▲児童が作成したうどPR作品（本宿小）

「新鮮で安全・安心な野菜はすぐそばに」生産者の笑顔



実(みのり)さん

武蔵野市内で活躍する農家の方々をご紹介します。



榎本さん宅

JA新鮮館

田中さん宅



豊(ゆたか)さん

榎本 満弘さん (関前2丁目在住)



▲万願寺とうがらしと満弘さん

境浄水場そば、ウッドテラスが人目を引く満弘さんの直売所。常時十数品目の販売をしています。

農業に携わるようになったのは、父清吉さんの代からです。清吉さんは研究熱心で新品

種の栽培も積極的に行い、トマト作りの名人です。満弘さんは、会社勤め、釣り船の船長と多様な経歴を持ち、10年前に就農しました。

そんな満弘さんの農のこだわりは、「野菜本来の味を引き出すこと」。自然由来の有機質肥料(堆肥・ぬか・魚粉等)で土壌を育てることをモットーにしています。また、安全安心な農作物を生産するため、農薬は一切使用せず、手間ひまかけて収穫・出荷を行っています。

栽培する品種や栽培方法、仕立て方の工夫を怠りません。最近では「海老芋」や「万願寺とうがらし」の生産に力を入れています。

田中 友希夫さん (吉祥寺北町5丁目在住)



▲原木しいたけと友希夫さん

田中家の10代目である友希夫さんは、大学卒業後、12年間にわたり農業関連企業に在籍し、肥料や農薬についての知識を身に付けました。

13年前に就農しましたが、その知識を活かして多品種の栽培に取り組んでいます。また、学校給食への出荷や小学生の芋ほり体験の受入れ等、地域に開かれた農業経営を行っています。中でも力を入れて栽培しているのが、「原木しいたけ」です。

原木栽培は、生育期間・手間・コストがかかりますが、自然に近い環境で栽培できます。そのため、しいたけ本来の風味・歯ごたえを消費者の方に届けられると感じています。

また、父政伯さんから引き継いだ伝統のうど生産は、うど室の中で中腰で行う過酷な作業ですが、先祖からの伝統を守るため、努力し続けています。

イベントカレンダー

(令和元年度下半期)

イベント名	時期	場所
農産物品評会	11月10日(日) 展示 午前10時~正午 即売会 午後1時~ (花は11時から予約販売) ※宝船(野菜)の宝分けは午後2時~	市役所北側広場 青空市会場横(市役所正面玄関前)
フレッシュサラダ大作戦 ※秋野菜の即売会	11月3日(日・祝) 午前10時~ 11月23日(土・祝) 午前10時~ 12月2日(月) 午前11時~	武蔵野公会堂(給食・食育フェスタと同時開催) 境南ふれあい広場公園(武蔵野プレイス前) 市役所正面玄関前
農家見学会	11月16日(土) 午前中	市内農家 圃場(ほじょう) 見学
うど品評会	2月中旬	JA東京むさし武蔵野支店にて、うどの即売

編集後記

第13号の発行にあたって

関係各位のご協力により第13号を発刊できましたことを感謝申し上げます。

先日の台風15号及び19号は、大きな農業被害をもたらしました。お見舞いととも、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

編集委員/櫻井真二郎、田邊安輝子、船木忠秋、桑津昇太郎、齋藤久枝、田中恒男

特定生産緑地申請率

67%

※申請者ベースでの割合
※申請=指定ではありません